

“東京スカイツリー見学と隅田川沿い歴史・文化・文学散歩”

9月17日(土)、秋たけなわとは言え地球温暖化の影響か真夏を思わせる中、“第42回歴史・文化を訪ねる会”例会が開催された。今回は首題の通りで新旧を取り混ぜての企画であった。当日の参加者は20名で、遠出コースながら多数の参加で関心の高さを物語っていた。

1. 企画の狙い

- ・自立式電波塔として世界一の高さとなる東京スカイツリー(以下東京S・T)建設現場を見学し、更に古くから名高い隅田川沿いの歴史・文化・文学散歩。

2. 散歩ルート

<午前の部> 10:30 ~ 12:00

- ① 京成押上駅集合→②北十間川・十間橋(No.1写真スポット)→③東京S・Tインフォプラザ→④源森橋(No.2写真スポット)集合写真→⑤墨田区役所(葛飾北斎、勝海舟、王貞治展示物見学)→⑥堀辰雄旧居跡→墨田公園(旧水戸藩下屋敷)で昼食

<午後の部> 12:40 ~ 15:30

- ① 牛嶋神社→②三囲神社→③弘福寺→④長命寺(桜もち)→⑤幸田露伴旧居跡→⑥白髭神社→⑦向島百花園(萩の花観賞)

3. 所感

京成押上駅改札前広場に集合し、東京S・Tが最も優美に見える写真撮影 No.1 スポットといわれる北十間川・十間橋に向かう。橋上から見ると逆さ東京S・Tが川面に移り素晴らしい景観であった。川沿いに上り、東京S・Tの真下では直径2.4m太さのパイプが組み上げる優美な曲線美と634mの見上げる高さにびっくり、日本が誇る建築技術の粋がここに凝縮されているのを実感した。東京S・Tを今度は反対側から眺めながら No.2 写真スポットと言われる源森橋で集合写真を撮る。次に歴史・文化を訪ねて墨田区役所を訪問。墨田区で生まれ育った勝海舟、葛飾北斎、王貞治の展示コーナーを見学し、合わせて区役所2階広場に立つ勝海舟像を見学し明治の偉人を偲んだ。昼食は墨田公園内野外ベンチで東京S・Tを眺めながら持参の弁当を食した。この公園内では、明治の文豪堀辰雄の旧居跡を訪れ、“風立ちぬ”の名作を思い起こした。午後からは“撫で牛”で有名は牛嶋神社を参拝、更に墨田川七福神で名高い、三囲神社、禅寺の弘福寺、さくら餅でも有名な長命寺、白髭神社を訪ねた。行程の仕上げは向島百花園名物“萩のトンネル”での萩観賞であった。ここは、江戸時代から庶民の憩いの場所として栄え、文人、歌人の歌碑が多数あった。ここまで暑さの中での強行軍であったのでまずは園内売店で一休憩し、体力回復後名物“萩のトンネル”“秋の七草”等を観賞した。全員元気で全工程を完歩でき大変嬉しかった。

参加者(敬称略) 岩崎正憲、川股賢三、遠藤哲也、木頃勝紀、住田勝治、古屋榮三、小澤敏宣、宇田川修禰、白岩仙一、田代 周、六角 学、牧田賢二、川上 昇、榎本哲夫、花岡秀男、中島公一、橋本裕一郎、西長義方、野田 佑、藤井弘道(20名)



平成23年9月17日 “北十間川・源森橋にて”



＜東京スカイツリー＞

自立電波塔として世界一の高さ(634m)
着工:2008年7月14日
展望台の高さ:第一展望台350m、
第二展望台450m



＜勝海舟像＞

文政6年(1823)江戸本所亀沢町(両国)生まれ。
幕末西郷隆盛との談判で江戸城無血開城で知られる。



＜堀辰雄旧居跡＞

明治37年東京市麴町平河町生まれ。



＜牛嶋神社”撫で牛”＞

貞観年間(859-879)に慈覚大師による開祖。
境内の”撫で牛”は自分の体の悪いところを
撫でると治るいわれる。



＜幸田露伴旧居跡＞

1867年(慶応3年)江戸下谷生まれ。
名作”五重塔”で知られる。



向島百花園”秋の七草”

文化元年(1804)骨董商の佐藤鞠塙が開園



第42回歴史・文化を訪ねる会

北十間川「源森橋」にて

平成23年9月17日(土)

前列左から中島公一、遠藤哲也、野田 佑、橋本裕一郎、宇田川修祐、岩崎正憲、白岩仙一、住田勝治
後列左から六角 学、藤井弘道、花岡秀男、木頃勝紀、川股賢三、小澤敏宣、田代 周、西長義方、
古屋榮三、牧田賢二、榎本哲夫、川上 昇、(敬称略)
写真提供 六角 学さん